

島根大学プロジェクト研究推進機構 『萌芽研究部門』		平成 17 年度 年度報告書		提出日 平成 18 年 2 月 20 日
① プロジェクト名		東アジア条件不利地域における農村貧困克服と環境対策		
② プロジェクトリーダー		藤原 勉	所属	生物資源科学部
			電子メール	fujihara@life.shimane-u.ac.jp
③ プロジェクトの概要（プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください。） 本研究では、2000 年頃から本格的に進められている中国における環境改善と経済発展の同時実現を目指した退耕還林草政策を中心的な対象として、急斜面にまで拡大された耕地を森林や草地に戻そうとする政策の実態と問題点を明らかにし、目的実現のための具体的方策を見出そうとするものである。日本と韓国については、比較検討すべき内容として、高度経済成長期の農村開発計画とその後の結果を、経済開発と環境保全という今日的視点で見直し、実態と問題点を明らかにし、三国における今後の方向を比較検討する。本研究の最終的な目的は、経済と環境の両立を図りながら、貧困な農村地域の発展を目指そうとするものであり、日・中・韓条件不利地域の実態研究を通じて、20 世紀に追求された「西欧的發展方式」の限界を超えた、21 世紀に相応しい「アジア的發展方式」とも言えるアジア共通の地域開発政策を提示し様とするものである。				
④ プロジェクトのメンバー及び役割				
氏名	所属（職）	本年度の役割分担		
藤原 勉	生物資源科学部（教授）	研究統括、舎飼家畜の栄養改善策と品質改良		
廣嶋清志	法文学部（教授）	人口動態と農村若手労働力の定住対策		
橋本 哲	生物資源科学部（助教授）	傾斜地の斜面安定策新作物導入		
富澤芳亜	教育学部（助教授）	地域資源の文献的研究と有効利用		
井口隆史	生物資源科学部（教授）	地域資源の活用と環境問題克服策		
⑤ 本年度の研究計画と目標（本年度当初の計画書に書かれた内容に沿って、計画と達成目標を箇条書きにしてください。）				
計画				
1. 8～9 月 中国西部地域農村調査および学術交流 （15 日 X5 人）				
2. 1 月 韓国慶尚南道智異山周辺地域の調査および学術交流 （10 日 X5 人）				
3. 2～3 月 国内比較調査、グループ検討会および研究のとりまとめ				
目標				
1. 寧夏回族自治区、南部山区における、「退耕還林草政策実施に伴う農村の経済・人口動態及びヒツジの栄養状況調査」による地域資源の活用と環境問題の現状を把握する。				
2. 韓国慶尚南道智異山周辺地域における農村の経済・地域地減の活用と環境問題の状況を把握する。				
3. 上記 1 および 2 の調査結果と日本国内の状況との比較調査・検討を行う。				

⑥ **計画の達成状況と自己評価**（前項で記載された計画の達成状況を項目毎に記載してください。また、年度目標に対する達成状況を項目毎に以下の基準に従って自己評価してください。A：目標以上に成果をあげた、B：ほぼ目標通りの達成度で予定した成果をあげている、C：計画より遅れ気味であるが年度末には目標達成が可能である、D：年度末までに目標達成は不可能である。Dの場合はその原因と対応策についても記載してください。2～3月に行う計画のため未執行の場合には評価は空欄にしてください。）

計画の達成状況

1. 平成17年9月（藤原・井口・橋本：9月17～27日、廣嶋：9月17～10月1日）に寧夏回族自治区南部山区を訪問し、相手側研究者（寧夏大学）と共に初期の目的に沿って調査を実施した。しかし、「ヒツジの栄養状況調査」に関しては、条例改正により、今年度からヒツジの血液の国外への持ち出しは出来無いという事から、血液・飼料のサンプル収集は出来ず具体的な成果を得ることは不可能であった。また、富澤は（平成17年9月18～10月2日）、中国の西部大開発政策に関連する調査研究のため、上海で文献調査（資料収集など）を行った。

2. 平成17年10月30～11月3日の間、藤原・井口・橋本は、研究協力者として依頼した伊藤勝久（生物資源科学部教授）および小林伸雄（生物資源科学部助教授）と共に、慶尚大学を訪問し、共同研究の打合せを行った。その後、初期の目的に沿って「智異山周辺地域の農村」を訪問し、資源の活用・環境問題の現状を視察した。

3. 平成17年11月中に、上記の調査結果と日本国内の状況との比較検討のため、本プロジェクトのメンバーに研究協力者を含めて検討会をもち、各人の研究成果を纏める作業を実施した。

自己評価

初期の計画・目標に対して、十分な成果を挙げることが出来たと思われるが、退耕還林草政策実施に伴う家畜飼養状況の変化に関する調査は実施できなかった事から、B評価とせざるを得ない。

⑦ **公表論文、学会発表など**（別途添付していただく個人調書の中から年度末までに発行される学術雑誌等（紀要も含む）に掲載が確定しているものも含め、代表的なものを10件程度選んでください。発明等に関しては差し支えない範囲で記載してください。）

⑧ **外部資金の獲得状況、その他、特筆すべき成果**（シンポジウムの開催、産学連携・地域連携に関する各種見本市、展示会への出展なども含む）

特筆すべき成果

1. 国際シンポジウムの開催（協賛）

平成17年12月10～11日、今年度、中華人民共和国、寧夏回族自治区銀川市、寧夏大学構内に新設された「寧夏大学・島根大学共同研究所」の落成記念国際学術シンポジウムを開催した。本プロジェクトのメンバーおよび研究協力者全員が企画に参画すると共に、話題提供・研究報告（ポスター発表を含む）を行った。また、韓国から共同研究に関する話題提供のため4人の研究者を招待した。

2. 「研究成果報告書」の作成

平成18年2月3日に、学内の関連研究グループ（科学研究補助金・特定研究チーム）との合同研究成果発表会を行い、中国及び韓国の研究者の報告も含めて、報告書「東アジア条件不利地域の発展と環境に関する研究」を年度内に刊行する事を決定した。

⑨ 本年度の主要な研究成果（図，表，ポンチ絵などを多用して，2 ページ以内にわかりやすくまとめてください）

主要な研究成果

今年度の調査結果から得られた成果を纏めた、本プロジェクトのメンバー及び研究協力者（3 カ国の研究者）による報告内容は以下の様である。

第1部 歴史と現状

1. 高度経済成長後の日本の農山村 （井口隆史）
2. 韓国農村の現状と農村開発政策の展開 （韓国、朴 珍道）
3. 西部大開発戦略の退耕還林・還草 （中国、高 桂英）
4. 国民政府期中国における西北紡織業の再編 ―東雲章の活動を中心に― （富澤芳亜）

第2部 開発と環境

1. 寧夏の退耕還林・還草から西部の生態系再生を見る （中国、宋 乃平）
2. 寧夏の「生態建設」と畜産 ―退耕還林（還草）施行後のヒツジの栄養状態― （藤原 勉・伴 智美）
3. 韓国における農村開発の歴史と社会環境の問題 （韓国、具 滋仁）

第3部 持続可能な発展

1. 中国西部地域における特色ある優良産業の発展と優良化に関する研究 ―寧夏の事例から― （中国、張 前進・劉 小鵬）
2. 韓国農村開発における優良事例から学べること （韓国、劉 正販）
3. 寧夏回族自治区の園芸植物資源とその利用方法について （小林伸雄・伴 琢也）
4. 農山村集落の活性化とその展開の背景 （伊藤勝久）

第4部 政策提起

1. 人口動態からみる都市と農村 （廣嶋清志）
2. 韓国の経験から見る持続可能な農村発展のための課題 （韓国、朴 景）
3. 西部大開発と今後の農村政策 （中国、高 桂英）